

## 令和8年度 事業方針

社会福祉法人 四天王寺福祉事業団

### I. 法人の使命

わたしたちは、四天王寺 開祖 聖徳太子の御聖旨に則る『理念』を礎として、ご利用者の尊厳を守り、良質なサービスを安全に提供し、安心して地域で暮らすことができるよう貢献することを「宣言」において顕揚し、人の幸せをよろこび合える福祉社会の実現を目指している。「宣言」は、職員一人ひとりが日々の業務遂行において、憶念し実践しなければならない。よって、この「宣言」を根幹として、事業方針・事業計画、各施設の経営計画が作成される。職員は、各施設における経営計画に基づき、各々の目標を明確にして、実行していかなければならない。この規範こそ、四天王寺福祉事業団の一貫した事業方針の要諦であり、その取り組み姿勢と行動をもって、法人全体の成果として結実させるためにも、各々の職員が事業運営において励行すべきものである。

### II. 経営環境の変化と求められる役割

ますます混迷する時代に、生きにくさを抱える人々は、年々増加している。だからこそわたしたちは、本来事業のみならず、既存の制度では対応が困難な多様化・複雑化する地域課題や生活課題に、高い専門性をもって積極的に関わらなければならない。

法人の先人達は、弛まぬ研鑽と献身的な尽力によって、戦後復興期の混乱や、その後、幾度かの混迷の時期を乗り越えて、今日の法人の礎を築かれてきた。このことに思いを馳せれば、現在の法人事業を担うわたしたちは、法人創成期の先人達の「只々目の前で困っている人の役に立ちたい」というひたむきな思いを一意専心継承し、法人の使命の実現に向けて思いをひとつにして取り組んでいかなければならない。

### III. 当年度の重点的取り組み

全役職員が、各々の役割において、当年度重点的に取り組む7つを以下に挙げる。

#### 1. 支援スキルの向上

職員が努力し習得した専門スキルをさらに向上させ、専門性と独自性を発揮した施設支援サービスを追求し実践する。

#### 2. 人財の確保と育成

法人使命の実践者となる人財の確保・育成に取り組むとともに、働きがいのある組織づくりに取り組み、その成果を検証する。また、10年後法人を担う次世代の人財を選出し、指導職・監督職等に抜擢し育成する。

### 3. プライマリーバランスの追求

各施設、事業の経営全般における中長期（5年後）の見通しを立てるとともに、部門・事業別の採算性を向上させる。

### 4. 行政との連携と事業開発

行政をはじめとする地元の関係機関と連携し、地域の多様な福祉課題や社会ニーズの変容に適った事業の刷新に挑戦する。また、複数施設から構成される拠点（悲田院事業所、富田林事業所、太子事業所）においては、スケールメリットを反映した経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を活用できる運営を再考し実践する。

### 5. 資金の集中と適正配分

令和8年度から向こう5年間は、重点的に資金を法人本部に集中し、各施設に迫り来るさまざまな経営課題（借入金返済、基幹設備更新等）の対処に充てる。

### 6. 職員のワークライフバランスの向上

令和2年度から推進する年間休日数123日に向け、未達成施設においては引き続き実現に向け取り組む。また、職員が心身ともに健康で、長く働くことができる職場環境の改善に向けて各施設で方策を立て実践する。

### 7. 中長期計画策定

職員が誇りと安心をもって働くことができ、利用者や地域に喜ばれ、社会に貢献する法人であり続けるために、情報の収集・分析・発信はもとより、「ヒト・モノ・カネ」＝「人財・サービス・財務」の観点に注視した中長期計画策定に着手する。

## IV. 法人創立100周年に向けて

著しい経営環境の変化の中、社会の不確実性が増している今だからこそ、全役職員が叡智を結集し、法人の『理念』に基づいた実践を通じて、地域や社会への貢献をさらに進め、持続可能な質の高い経営を実現していきたい。そして、四天王寺福祉事業団で働くことの誇りとよろこびを自分のものとし、令和13(2031)年の法人創立100周年を迎えたい。

「ご利用者の笑顔がわたしたちの仕事の成果である」